

創刊100号 記念号

平成24年7月2日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第100号

[目次]

1. 進 陸運事業本部長就任挨拶
2. LIFE TIMES創刊100号にあたり
3. LIFE TIMES創刊100号を迎えて
4. LIFE TIMESのあゆみ
5. 場所自慢 Part2 ~第27回 富山営業所~
6. トラック追突防止マニュアルについて
7. 物流ITソリューションフェア 参加レポート



1. 進 陸運事業本部長 就任挨拶

執行役員 陸運事業本部長 進 保美

大暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。この4月より、陸運事業本部を担当することとなりました進です。宜しく申し上げます。前任地は中部支社(三重県四日市)で、三菱化学社の石油化学事業再編につき連携して対応させていただき、貴重な経験をさせていただきました。

巷では、日本代表が続々と選出されテレビや新聞で賑わいをみせ、あとは今月末のロンドンオリンピックを待つばかりとなりました。また、金環日食や東京スカイツリー営業開始など明るい話題もありましたが、お祭り気分とは程遠い、この梅雨空のような気持ちであります。

大震災後の現地復興状況も憂慮される中、歴史的な円高不況、社会保障と税の一体改革の行方、夏場の電力需給と長期的なエネルギー供給の問題など不透明な部分が多く、それらは企業のみならず、家庭にも直接関わってくるものです。今後、国内メーカーの生産拠点のグローバル化も一層加速すると考えられ、当社を含む国内の多くの物流会社の環境は大変厳しいものとなってきております。このような中での事故、トラブルの発生は決して許されるものではなく、運輸安全マネジメントの更なる点検を実施しております。

そのような、“危機的状況”“加速度的に変化していく事業環境”に於いては、「守り」を固めて「攻め」に転じることが肝心です。「守り」とは安全QAを指します。守備を固めて初めて攻撃に転じることができます。仕事柄東海道新幹線を利用することが多いですが、もちろん「車内改札」があります。韓国のKTX(日本の新幹線に該当)には車内改札どころか駅の改札口もないそうです。取り締まること(これも大事ですが)より、旅客サービスに重点を置いているとのこと。現在、顧客満足最大化を目的とした中期経営計画『READ2012』の遂行中ですが、その達成のためには同じような「ゼロベースでの思考」、そして当社のオリジナリティが必要と考え、現在実現に向けて努めております。

今後とも、種々の社会環境の変化にも機敏に対応し、「信頼されるソリューションプロバイダー」として価値あるロジスティクスを提供して参る所存です。ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



2. LIFE TIMES創刊100号にあたり

ソリューション営業部長 白土 雄二郎

LIFE TIMESをいつもご愛読戴きまして誠にありがとうございます。お陰様で今回、創刊100号を迎える事が出来ました。これも一重に皆様方のご支援の賜物です。

日本経済は、緩やかに回復する基調にはあるものの、記録的な円高などの要因により経済環境は依然厳しい状況にあります。物流業界でもグループ企業内において同業会社の統合や売却といった動きがあり、企業存続のためにはその変化に対し俊敏に対応する事が求められています。当社におきましても荷主各社様の事業再編などにより、当社を取り巻く環境も一層厳しい状況にあります。この状況を少しでも良くしていくためには、当ソリューション営業部の役割である新規顧客の獲得、既存荷主の維持、拡張を早期に実現しなければなりません。現在、中期計画『READ2012』の最終年度として取り組んでいます。今後2015年に向かって更にステップUPを図っていききたい所存です。

こうした中、LIFE TIMESは既存・新規のお客様に向けて、当社のPRや物流情報の提供を目的として発行を継続して参りました。より面白く・読みやすさをモットーに掲載記事の選定、作成を心がけてきたつもりです。作成したものは当社HPにも掲載しており、これがきっかけで様々な方面からの問い合わせ、新規引き合いを頂戴する事もあり、営業支援としての役割も確かなものと感じております。

今後も、効率化案件の事例紹介、また解析ツールの開発による検討期間の短縮など、ソリューション営業部の活動内容を発信し、お客様のお役に立てるような内容に努力して参りますので、より一層のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

3. LIFE TIMES創刊100号を迎えて

児崎 豊満氏 (当社OB:本誌当社元編集長)

「LIFE TIMES」100号刊行おめでとうございます。17年にもなるのですね。また、その記念号寄稿の荣誉を賜り深謝申し上げます。

振り返ってみますと、1号からしばらくの間はワープロの時代で写真などが挿入できずに、誌面の枠組みつくりの際に写真のスペースを空けて、印刷後に写真を貼り付け、コピーしたものを配布していたように思います。

編集内容的には、当初は場内作業効率化のための解析技術の紹介が多かったように思いますが、私が担当した頃より物流効率化活動を三菱化学社やそのグループ会社限定から、当社事業拡大に向けた営業のツールとして一般企業へ効率化診断の取組みを始めました。そのため、効率化のための解析や仕組みつくりも従来の場内作業系から、在庫系・販売物流系・仕組み系までの物流全体を改善できるよう、更にはSCMまで範囲を拡大しました。これにより、「LIFE TIMES」の内容も従来の解析技術中心から、物流全般の紹介や改善クライアントの改善内容・改善実績を多く掲載するようになって参りました(勿論クライアントの了解の下)。また、編集ソフトも最新のものを使用し、更には遊び心も十分に入った、読みやすく、ためになる誌面になっていると思います。また最新情報を発信することで、それがMCLC自体の作業解析や販売物流最適化のシミュレーションソフトの活用などIT化に繋がり、好循環となっています。

「物流は暗黒大陸」と言われた時代がありましたが、物流にも科学的なメスが入られ、また、SCMの中の物流と認識され始め、理解度向上のためにも物流の可視化が進められました。範囲の拡大は物流一分野だけでの効率化では効果は小さく、生産・販売・在庫・仕組み等も合わせ再構築する事による大きな効果を狙ったものです。いわゆる「全体最適」の追求であり、今後とも物流人は広い視野でものを考え、生産・販売・在庫に携わる方々には、全体最適の重要さをご理解いただくべきだと思います。

MCLCのOBとして、また、効率化チーム「LIFE」に属していた者として、MCLCの今後ますますの活躍と繁栄を祈念します。



4. LIFE TIMESのあゆみ

創刊100号記念号という事で「LIFE TIMES」のこれまでのあゆみについて簡単に振り返り、今後のあり方について模索してみたいと思います。

「LIFE TIMES」は、元・三菱化学社物流販促部LIFEチームにより、「三菱化学社各物流部門へのLIFE手法のPR」を目的に1995年5月1日に創刊されました。創刊号(下図参照)はワープロを主体に図や絵などを切り貼りして作成。2号からはパワーポイントを使用して作成していました。

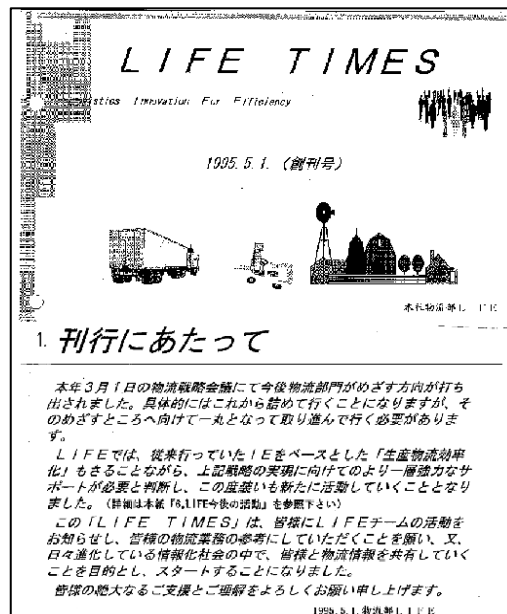
その後、1998年4月に三菱化学社の物流機能が当社に移管され、物流コンサルティング事業を当社で開設した事に伴い、本誌の発行元も15号から当社・陸運部へ移管され、「三菱化学社及びグループ会社、外部顧客へのLIFEコンサルティングのPR」を目的として発行が継続されました。

更に2003年1月にLIFEチームは営業支援の立場となり、本紙の役目は「当社の物流サービスのPR」へ変わり、ホームページにも掲載するようになりました。また、70号からは表紙のロゴマーク等レイアウトを一新して現在に至っております。

今日まで17年間・100号と「LIFE TIMES」を継続してこられたのも、ひとえにご愛読戴いている皆さまのお陰です。

ネットを使った「メルマガ」が隆盛の昨今ですが、しっかりと地に足の着いた情報を、懇意にして戴いている特定のお客様に、手に取れる形でご提供する事の大切さを感じております。

益々研鑽し、より良き情報をご提供して参りたく一同気持ちを新たにしておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



5. 場所自慢 Part2 ~ 第27回 富山営業所~

中部支社富山営業所は、2012年4月、物流効率化を目標に、A社物流業務の元請を開始しました。まだ輸送業務の元請が始まったばかりですが、将来は構内作業の受託や、新規荷主の獲得を目指しています。

富山県は、その県名が表わすとおり、三方にそびえる山々にかこまれた自然豊かな県です。中でも、3,000m級の山々が並ぶ立山連峰は、雄大な自然のなかで暮らす富山県の人々にとって、故郷のシンボルとなっています。

観光地としては、4月になれば、高さ20mにも達する大迫力の雪の壁「雪の大谷」や、石原裕次郎主演の映画「黒部の太陽」に描かれた事で有名な「黒部ダム」があります。

他にもチューリップや蜃気楼など、つい自然ばかりに目がいつてしまいますが、実は「住みやすい」県としても知られていて、道路整備率が全国でも高く、路面電車など、公共交通機関も充実しています。また、進学率や就職率、特に女性の就職率は全国でもトップクラスです。

食についても、富山湾は「天然のいけす」とも呼ばれ、ブリ・ホタルイカ・シロエビを筆頭に、四季を通じて新鮮で豊かな海の幸に恵まれています。普通の回転すし店でもびっくりするほどのおいしさで、おみやげには「ますのすし」がおすすめです。

是非、みなさんも富山へお越し頂き、新鮮な海の幸をご堪能下さい。



立山連峰と富山市



雪の大谷



黒部ダム

6. トラック追突防止マニュアルについて

4月に発生した関越自動車道高速バス居眠り事故は、誰もが大変な衝撃を受けたのではないのでしょうか。高速バスに限らず、トラックによる事故も多く発生し、その大半が追突事故のようです。このような状況を受けて、国交省は運送会社経営者、運行管理者、運転手の3者向けにマニュアルを作成しました。

マニュアルの内容(ポイント)は下記の通りです。

- ・運送会社経営者向け・・・追突事故で生じる損失の大きさや経営者が担う責任などを説明
- ・運行管理者向け・・・ワークシートに現状の事故防止の取組みを記入しながら、欠けている点を確認できる
- ・運転手向け・・・日常業務や生活の上で安全運転に繋がる心構えを紹介

また、このマニュアルにより追突事故防止を喚起すると共に、前方の車に追突する危険性を感知して作動する自動ブレーキ装置の取付け義務化(20t超トラックが対象)も決め、事故件数の削減対策を進めています。

当社においては、社内で発生した事故の事例を協力会社へも紹介し、類似事故の再発防止に取り組んでいます。様々なところでの事故防止活動を通して各自の事故に対する意識を変え、事故件数を減少させるために今後も活動を続けていきます。

7. 物流ITソリューションフェア 特別講演参加レポート

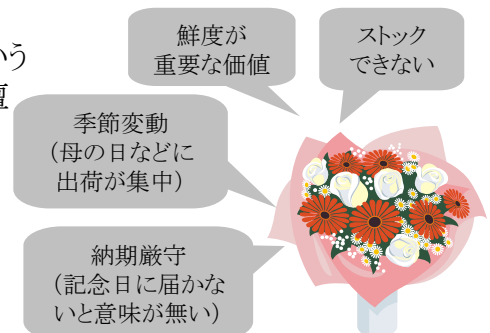
2012年5月9日～11日、東京ビックサイトにて『第4回物流ITソリューションフェア』が開催され、その特別講演を聴講しました。その特別講演のテーマの一つ、『生花ギフト商品の物流ITソリューション』について内容をご紹介します。

ITを活用した物流事例は多く耳にしますが、今回は「生花」という”ギフト・生鮮”商品に特化した事例です。講師は(株)日比谷花壇の宮嶋浩彰社長。「生花」物流の特徴や課題について、また、自社の物流ITソリューションについて紹介がありました。

「生花」物流の課題としては、季節変動による固定費リスク(稼働率が一定でなく、倉庫の固定費負担が大きい)、鮮度維持コスト(生産地から消費地までの鮮度維持にコストがかかる)といった点が挙げられていました。

これらの課題克服のために、提案されていたのが「分散型マネジメント」。稼働率の変動に対応できる小規模倉庫を活用し、物流ITでそれらを繋ぐ。そして産地直送型への転換を図る仕組みとの事。

物流機能の分散はデメリット(コストUP)ばかりに注目しがちでしたが、ITを活用し最適化を図ったこの事例を知り、物流機能分散のメリットと、その中でのITの重要性を再認識する事ができました。



ソリューション営業部 前田 博

今回、LIFE TIMESは100号を迎える事ができましたが、それでは50号の頃はこういった活動をしてきたのかが気になり、バックナンバーに目を通してみました。その中で目にとまったのは編集後記で、その回の筆者(当社の大先輩です)は、当時ある効率化検討に携わっていた関係で仙台で執筆している事、他の部員も全国各地に散らばって検討活動を実施している事が記されていました。私も現在、あるお客様の効率化検討メンバーの一員として、2名の同僚と共に四国に滞在していますが、諸先輩の活動に負けぬよう、頑張っていきたいと思えます。